**課題別評価表**　　令和７年度

# 知　　育

| | |
|---|---|
| R７活動計画 | ①練習問題に取り組む時間を確保するとともに、短時間にできるマス計算やミニ漢字テストなどを継続的に取り組む。<br>②意見を集約したり、考えをわかりやすく表現したりするために、指導法を工夫する。<br>③様々な学習形態を取り入れ、主体的に学習へ取り組む意欲の高揚に繋げる。 |
| R７評価指標 | ①「これまでに習った文字や漢字を読んだり、書いたりできる。」また、「これまでに習った計算ができる」児童が 80％以上<br>②「聞いたことや伝えたいこと、考えたことを、自分の言葉や図・表などを使ってまとめたり、表現したりできる」児童が 70％以上<br>③「進んで自分の意見や考えを伝えようとしている」児童が、80％以上。 |
| R７実施状況・達成度・評価・課題 | 学校評価アンケートより<br>①漢字の習得については保護者７６％（保護者アンケート⑩）教職員７５％（教職員アンケート⑪）下学年児童８６％（1,2,3 年アンケート⑩）上学年児童７８％（4,5,6 年生アンケート⑩）が肯定的に回答している。十分な定着とは言えず次年度への課題である。<br>計算力については、保護者８５％、教職員９０％、下学年児童９４％、上学年児童８６％が肯定的な回答であり、向上の兆しがみられる。これは昨年度から算数科学習に重点的に取り組んできた成果と捉えている。<br>②肯定的な回答が保護者７９％、教職員６８％、下学年児童７９％、上学年児童６７％となっている。自分の考えをわかりやすく伝えることのできる児童が少しずつ増えてきている。次年度以降も対話的な学びの時間を確保し、児童の表現力を高めていきたい。<br>③肯定的な回答が下学年児童７６％、上学年児童４２％というアンケート結果になっており、目標指数にも大きく届いていない。クラス全員の前で発表することに苦手意識をもっている児童が多い。ペア学習やグループ学習など、少人数で発表する機会を確保し、発表に対する苦手意識を払拭していきたい。 | 【総合評価】<br>B |
| R７学校関係者評価 | ・自分の考えをわかりやすく伝えることができる児童が増えているのはうれしいが、上の学年になるほど肯定的な回答が減っているのは残念である。<br>・ペア学習やグループ学習など少人数で発表できる機会は今後も確保してほしい。<br>・表現力を育てるためにできることとして、「対話的な学びの時間の確保」や「ペア学習やグループ学習などの少人数での発表の機会の確保」をあげているのはすばらしい。自分の意見や思い、考えを人に伝えることは「子どもの人権」であり、大事なことだと思っている。 |

**備考**【「総合評価」における「評定」の基準】

Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった

**課題別評価表**　　令和７年度

# 徳　　育

| | |
|---|---|
| R７活動計画 | ①気持ちのよい挨拶や場に応じた言葉遣いなど、望ましい言動を身につけさせ、よりよい人間関係の構築を図る。<br><br>②教職員全体で共通理解を図るとともに、支援方法について研修を行い、それぞれの違いを尊重し、個別最適な学びを実践する。 |
| R７評価指標 | ①児童・保護者・教職員のアンケートで「気持ちのよいあいさつができている」「言葉遣いに気をつけている」と感じるが８０％以上。<br><br>②教職員アンケートで、「個別最適な学びを実現するため、教職員全体で共通理解を図り、個々の児童のちがいを尊重し、個に応じた指導をしている」と感じるが９５％以上。 |
| R７実施状況・達成度・評価・課題 | ①「気持ちのいいあいさつ」については、保護者７９％、教職員６７％、上学年児童７４％、下学年児童８８％が肯定的に回答している。「言葉遣い」については保護者の７７％、児童の下学年９４％、上学年８５％、が肯定的に回答しているが、教職員の割合はそれほど高くはなく、教職員と児童の間で回答に差がある。「自分はできているつもり」になっている児童が一定数いることがわかる。改善策としてポジティブな行動支援を学校全体で取り組み、望ましい行動が増えていくよう継続的に支援していきたい。誰が見ても納得する「気持ちのいいあいさつ」や「言葉づかい」ができている児童を増やしていきたい。<br>②教職員アンケートでは９７％が肯定的に回答している。授業改善に向けて教職員研修を続けてきた結果だと捉えている。次年度も継続して研修に取り組み、一人一人の児童を大切にし、誰一人取り残すことない個別最適な学びを実現できるように努めたい。 |
| 【総合評価】 | B |
| R７学校関係者評価 | ・挨拶や言葉遣いについては学校だけでは難しいので、家庭でもしっかり保護者が手本になってほしい。<br>・個別最適な学びの先生方の取組は子どもたちへもプラスとして伝わっていると思う。<br>・言葉遣いについて、教職員と児童の間で回答のずれがある。その要因について、具体的に探る必要があると思う。言葉は時代によって変わるものであるので、一概に教職員の求める【言葉遣い】が正しいともいえない。一緒に考える時間や機会が必要だと感じる。<br>・幼・小・中・高間の連携を深め、ピアサポートを通して自己肯定感を高める活動を増やしてほしい。 |

**備考**【「総合評価」における「評定」の基準】

Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった

**課題別評価表**　　令和７年度

# 体　　育

| | |
|---|---|
| R７活動計画 | ①生活リズムチェックやメディアコントロールを用い、家庭でも好ましい過ごし方を考える機会を設ける。<br>②体力向上計画を基に体育科の授業の中での運動量の確保と運動の質の向上を図るとともに、外遊びを奨励する。 |
| R７評価指標 | ①「５０ｍ走記録向上者数が 55％以上をめざす。<br>②外遊びチャレンジで、達成率 70％以上をめざす。<br>③児童保護者アンケートで、「早寝・早起きをしている」「放課後や休みの日に、運動や外遊びをしている」「家庭で決めたテレビ・ゲーム・スマホの時間を守っている」と感じるが 75％以上。<br>④「手洗い・うがい」を奨励し、児童の達成率 70 ％以上をめざす。（手洗いうがい週間を設ける。） |
| R７実施状況・達成度・評価・課題 | ①５０ｍ走の記録が向上した児童は５８％となっている。体力向上計画に基づき、体育の授業で運動量を確保するなど年間を通した地道な取り組みの成果だと捉えている。外遊びチャレンジ達成率は４７％である。次年度はさらに数値がアップするよう、効果的な取り組みを検討・実施し引き続き体力向上に努めたい。<br><br>②児童と保護者アンケートによる結果は次のとおりである。<br>「早寝早起き」下学年７４％、上学年６６％、保護者７７％<br>「運動・外遊び」下学年８４％、上学年６９％、保護者６８％<br>「ゲーム・スマホ」下学年７６％、上学年７０％、保護者６１％<br>どの項目も目標数値に達していない結果となった。原因を分析し、次年度の改善策を検討したい。<br>③「手洗い・うがい」については重点的取り組み期間を設けず、年間を通して実施した。達成率は調べていないが、十分な定着とは言い難い。ただ、学級閉鎖や学年閉鎖が起こっていないことから、養護教諭や学級担任の常時指導に関しては一定の成果があったと捉えている。 | 【総合評価】<br><br>B |
| R７学校関係者評価 | ・子どもの外遊びには、「空間」「仲間」「時間」の三つの「間」が必要であると言われている。子どもたちの外遊びが不足する環境要因を地域の大人として改善していきたい。<br>・望ましい生活習慣は学校だけで身につくものではないので、家庭の協力を得ながら進めてほしい。 | |

**備考**【「総合評価」における「評定」の基準】

Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった